

令和 8 年度
(2026 年)

運 営 に 関 す る 計 画



大阪市立東都島小学校

1 学校運営の中期目標

現状と課題

○学校が子どもたちにとって安心して成長できる場であるために、学校全体で問題意識を共有し、家庭・地域・関係諸機関と連携しながら取組を進めてきた。その成果は表れてはいるものの、児童を取り巻く環境の変化は目まぐるしく、今後も様々な課題を敏感に把握し、迅速かつ組織的に対応するとともに、問題を未然に防止するため改善を図ることが求められている。

また、子どもたちの心の状態にもしっかりと目を向ける必要がある。学校へ行き渋る児童や、友だちとの関わりが難しい面も見られ、子どもたちが不安定な心理状態にあるとも考えられる。教職員が連携し、子どもたちに教職員がしっかりと向き合い、子どもたちの異変にすぐに気づき対応できる体制を維持する必要がある。あわせて、教職員が子どもたちとしっかりと向き合うことができるためにも、ゆとりを確保しながら教育活動を進めることも課題である。

将来にわたってたくましく生き抜く力を育むためには、基本的な生活習慣、そして基礎的・基本的な内容の習得(基礎・基本の学力)を定着させ、人を思いやる心や人と関わる力を育むことが大切だと考える。

そこで本校としては、意図的・計画的に深い学びとなる取組を教職員が協力・連携して組織的に行い、新しい学びの教育環境を効果的に継続的に活用しながら進める必要がある。学力と同時に、健やかに力強く生き抜くための体力についても、狭い運動場で様々な知恵を用いて向上させる必要がある。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ① 小学校学力経年調査（校内調査）における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 87%以上にする。
- ② 小学校学力経年調査（校内調査）における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的に「そう思う」と回答する児童の割合を 87%以上にする。
- ③ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
（出席日数の増・ICTの活用による学習活動や学校とつながる回数の増・養護教諭やスクールカウンセラーなど学校内外の専門的な相談につなげる）
- ④ 小学校学力経年調査（校内調査）における「学校のきまり（規則）を守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 95%以上にする。
- ⑤ 小学校学力経年調査（校内調査）における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 88%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.02 ポイント向上させる。
- ② 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.02 ポイント向上させる。
- ③ 小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 85%以上にする。
- ④ 校内調査の児童アンケートにおける「授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 93%以上にする。（市目標なし）（R7 学校→校 91%）
- ⑤ 小学校学力経年調査（校内調査）における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 90%以上にする。
- ⑥ 小学校学力経年調査（校内調査）における「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を 96%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ① 小学校学力経年調査（校内調査）における「学習者用端末を活用して、自分の考えや意見を伝えたり、友だちと共有したり比べたりしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を 80%以上にする。
- ② 校内調査の児童アンケートにおいて、「ICT機器（大型画面）やパソコンを使った授業はわかりやすい」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、90%以上にする。
- ③ 時間外勤務時間について、月 100 時間以上実施する教員をゼロにする。
- ④ 小学校学力経年調査（校内調査）における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 77%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

- ① 小学校学力経年調査（校内調査）における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 86%以上にする。
- ② 小学校学力経年調査（校内調査）における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的に「そう思う」と回答する児童の割合を 86%以上にする。（市目標なし）
- ③ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
（出席日数の増・ICTの活用による学習活動や学校とつながる回数の増・養護教諭やスクールカウンセラーなど学校内外の専門的な相談につなげる）
- ④ 小学校学力経年調査（校内調査）における「学校のきまり（規則）を守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を 94%以上にする。
- ⑤ 小学校学力経年調査（校内調査）における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.02 ポイント向上させる。
- ② 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.02 ポイント向上させる。
- ③ 小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 80%以上にする。
- ④ 校内調査の児童アンケートにおける「授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 92%以上にする。
- ⑤ 小学校学力経年調査（校内調査）における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 85%以上にする。
- ⑥ 小学校学力経年調査（校内調査）における「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を 96%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ① 小学校学力経年調査（校内調査）における「学習者用端末を活用して、自分の考えや意見を伝えたり、友だちと共有したり比べたりしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を 75%以上にする。
- ② 校内調査の児童アンケートにおいて、「ICT機器（大型画面）やパソコンを使った授業はわかりやすい」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、90%以上にする。
- ③ 時間外勤務時間について、月 100 時間以上実施する教員をゼロにする。
- ④ 小学校学力経年調査（校内調査）における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 76%以上にする。

大阪市立東都島小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【安全・安心な教育の推進】 ① 小学校学力経年調査(校内調査)における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 86%以上にする。 ② 小学校学力経年調査(校内調査)における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的に「そう思う」と回答する児童の割合を 86%以上にする。 ③ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。(出席日数の増・ICTの活用による学習活動や学校とつながる回数の増。養護教諭やスクールカウンセラーなど学校内外の専門的な相談につなげる) ④ 小学校学力経年調査(校内調査)における「学校のきまり(規則)を守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を 94%以上にする。 ⑤ 小学校学力経年調査(校内調査)における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容① 【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 ・児童が違いを認め合い、互いに尊重し合うことができる間関係を築くことができるよう組織的な指導を行う。 ----- 指標 ・毎月 1 回の共通理解の場の設定や校務支援システムを活用した情報共有を実施する。 ・スクリーニング会議を定期的実施する。 ・いじめ対策委員会を定期的開催する。 ・年 1 回「いじめについて考える日」に合わせて、各学年・学級でいじめについて考える取組を行う。	
取組内容② 【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 ・児童が相談しやすい環境を作り、児童の変化に気づき素早い対応をする。また、場合に応じて関係諸機関とも連携し、サポートできるようにする。 ----- 指標 ・児童の実態把握を強化する(心の天気・相談機能の確実な実施)。 ・1 年と 4 年で児童虐待防止に関する学習を年 1 回行う。	
取組内容③ 【基本的な方向 2 豊かな心の育成】 ・日々の学習や特別活動などの取組の中で、「なぜそのきまりがあるのか」「きまりを守ることの大切さ」に重点を置き、計画的に道徳教育を実践することによって、きまりを守ることについての意識を高める。 ・「学習ガイド」「生活ガイド」の作成・配付により、児童が守るべきルールを職員・児童・家庭に周知し、守ることができるように指導する。	

指標 ・生活目標を児童朝会の際に毎回確認し、それぞれのきまりが決められている理由を考えたり、毎月のきまりを守ろうとする意欲を高めたりする。 ・学期に1回、各学級で「学習ガイド」「生活ガイド」に沿って学校生活を行うことができるか振り返る時間を設ける。	
取組内容④ 【基本的な方向2 豊かな心の育成】 ・「個性の伸長」や「自分のよさを認める」という内容について重点的に指導することによって、自己肯定感を高める。 ・学級活動や帰りの会など、様々な場面でお互いのよさを認め合う活動を取り入れ、児童の自己肯定感を高める。	
指標 ・学期に1回、自己肯定感を高めたり、自己理解を深めたりすることができる取組を各学級で行う。 ・年2回キャリアパスポートで自己を振り返る項目を活用し、自己のよさを見つめることができるようにする。	

大阪市立東都島小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 ① 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.02 ポイント向上させる。 ② 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.02 ポイント向上させる。 ③ 小学校学力経年調査 (校内調査) における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 80% 以上にする。 ④ 校内調査の児童アンケートにおける「授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 92% 以上にする。 ⑤ 小学校学力経年調査 (校内調査) における「運動 (体を動かす遊びを含む) やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 85% 以上にする。 ⑥ 小学校学力経年調査 (校内調査) における「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を 96% 以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の増加】 ・国語科を研究教科とし、子どもたちの文章読解力を育成する指導法を工夫する。 ----- 指標 ・令和 8 年度の小学校学力経年調査における国語科の「読むこと」の平均正答率の対市比を、同一母集団において比較し、いずれの学年も前年度より 0.02 ポイント向上させる。	
取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の増加】 ・個別最適な学びを実現することで、子どもの学習習熟度を向上させる。 ----- 指標 ・令和 8 年度の児童アンケートにおける「授業はわかりやすい」にと対して、肯定的に回答する児童の割合を 92% にする。	
取組内容③【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 ・かけ足週間などの取組や遊具の活用により、運動に親しむようにするとともに、外部講師を招き運動能力の向上を図る。 ----- 指標 ・体育的強調週間を年 2 回、運動集会を月 1 回行う。 ・外部講師を年間 1 回以上招く。	
取組内容④【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 ・朝食の大切さについて考え、給食だより・保健だよりなどを活用し、規則正しい生活をする大切さについて考えることができるようにする。 ----- 指標 ・年間 1 回以上、栄養指導や保健指導の際に規則正しい生活についての啓発を行い、月に 1 回給食だより・保健だよりを発行する。	

(様式例 2)

大阪市立東都島小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【学びを支える教育環境の充実】 ① 小学校学力経年調査（校内調査）における「学習者用端末を活用して、自分の考えや意見を伝えたり、友だちと共有したり比べたりしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を 75%以上にする。 ② 校内調査の児童アンケートにおいて、「ICT 機器（大型画面）やパソコンを使った授業はわかりやすい」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、90%以上にする。 ③ 時間外勤務時間について、月 100 時間以上実施する教員をゼロにする。 ④ 小学校学力経年調査（校内調査）における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 76%以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容① ・授業を担当する全教員が ICT 活用進行段階フェーズ 2 に到達することを目標に学習者用端末の活用を推進する。	
指標 ・年に 1 回以上 ICT 活用に関する校内研修を行う。	
取組内容② ・年度当初に授業時数や業務量を調整し、年度末に見直しを行う。 ・時間外労働時間削減を意識しながら計画的に業務を行う。	
指標 ・ゆとりの日を月に 2 回以上設定する ・週に 1 回学年打ち合わせの時間を設定し実施する。	
取組内容③ ・毎日の図書館開放、定期的な学級文庫の入れ替え、読書タイムの設定、ボランティアひまわりによる読み語りや絵本広場の設定等を行い、児童が読書に親しむことができるようにする。 ・児童が興味のある書籍の購入や定期的な蔵書点検、季節に合わせて本棚を入れかえなどをして読書への意欲が湧くように図書室の環境を整える。また、読書イベントを行い、図書室により多くの児童が足を運ぶことができるようにする。	
指標 ・令和 8 年度の小学校学力経年調査・校内調査の「読書が好きですか」の項目について肯定的に答える児童の割合を 76%以上にする。	